

情報通信審議会情報通信技術分科会 ITU 部会

周波数管理・作業計画委員会(第41回)

議事概要

1 日時

2026年5月 18日(月)13:00-15:00

2 場所

Web開催

3 議事

- (1) ITU-R SG1 関連会合の日本寄与文書(案)について
- (2) ITU-R SG1 関連会合の外国等寄与文書審議表(案)について
- (3) ITU-R SG1 関連会合の対処方針(案)について
- (4) その他

4 出席者(敬称略、順不同)

主査:横山 隆裕

主査代理:寶迫 巖

構成員:新 博行、伊藤 真奈美、岡崎 彰浩、加藤 康博、菅 瑞紀、田村 知子、
福井 祐介、吉田 貴容美

5 議事概要

- (1)ITU-R SG1 関連会合の日本寄与文書(案)について

周作委41-1 に基づき、ITU-R SG1 関連会合の日本寄与文書(案)を検討した。次の議論の後、承認を得た。

- ・ 周作委 41-1-1 (ITU-R レポート草案 SM.[ACTIVE SERVICES BETWEEN 275 AND 450 GHz]作業文書への修正提案)

(新構成員)①無線通信アドバイザリグループ(RAG)から、ITU-R の文書では、5G や 6G といった文言の使用は避けるべきで、IMT-2020、IMT-2030 といった用語を使用するようガイダンスが出ている。本ガイダンスを踏まえ、用語は修正したほうが良い。

②テキストの X Haul を説明する節で O-RAN に触れられているが、本質的にはオープン RAN であることは関係がないと思われる。記載する必要はあるのか。

(NICT 吉野氏)①は、ご指摘のとおり修正する。

②は、DU(Distributed Unit)、RU(Radio Unit)及び CU(Central Unit)間の接続は、現在光ファイバーが使用されているが、これをテラヘルツ通信により置き換える可能性を示すための例示として O-RAN を取り上げた。

(新構成員)O-RAN については、光ファイバーを置き換えるかどうかというより、異なるベンダーの装置をつなげることができるようにインターフェースをオープンにするものであるという理解。ベンダー独自の実装でも DU と RU をテラヘルツ通信で接続することは技術上可能だと考え、O-RAN を前面に出すことが妥当であるかを気にしていた。原案を維持したいのであれば問題ない。

(福井構成員)参照する関連 ITU-R 文書の改訂番号、スペルミス、図番号のズレといったエディトリアルな点の修正が必要。

(NICT 吉野氏)確認し、修正する。

(NICT 小川氏)ITU-R 報告や勧告の改訂回数を示す番号を反映する旨を吉野氏から返答したが、ITU-R 報告や勧告が改訂される度に文書内の番号も改訂が必要になることから、記載せずに提出することとしたい。

(福井構成員)承知した。

(西田構成員(欠席のため横山主査によるコメント代読))①提出寄与文書概要のタイトルに、ITU-R 報告の和文タイトルを示していただきたい。

②既存の ITU-R 報告(ITU-R 報告 F.2416-1、ITU-R 報告 M.2417 及び ITU-R 報告 SM.2352)との差異をカバーページに明確に説明していただきたい。

(NICT 吉野氏)①は、対応する。②は、本寄与文書(案)は、275~450GHz 帯における無線通信業務を横断的に記載することを念頭に準備している。2025 年 6 月の WP1A の結果を受け、本提案では、ユースケースの紹介のみを提案していたが、最終的には「運用及び技術的な特性」を記載することを目標としている。将来的に重複を避けて、文書間の棲み分けをうまく行うことは難しいと考えられることから、既存の ITU-R 報告 SM. 2352 に対し、ユースケースを加筆するような形式に修正する。

(横山主査)本委員会後に別途調整としたい。

- 周作委 41-1-2(新レポート草案 SM.[THZ.NB.APPLICATIONS])に向けた作業文書の提案)

(加藤構成員)「狭帯域」という言葉が使われているが、広帯域との違いがわか

るように定義を明確にしたほうがわかりやすいのではないか。例えば 2.1 章に周波数帯に関する記載があるが、この前段に説明があるとわかりやすいのではないか。

(NICT 小川氏)現時点で具体的に狭帯域を示す周波数幅を示すことは困難であるので、「数 GHz の幅」であることが分かるような説明を追記することとした。

(加藤構成員)承知した。後段の個々の狭帯域アプリケーションの帯域幅の記載によると幅があるので、レンジで記載すると理解しやすいのではないか。

(NICT 小川氏)ご指摘いただいた情報をカバーページ、イントロダクション、狭帯域アプリケーションの節にそれぞれ追加する。

(福井構成員)スペルミス、番号のズレ、引用箇所の変更といったエディトリアルな点の修正が必要。

(NICT 小川氏)修正する。

(西田構成員(欠席のため横山主査によるコメント代読))①提出寄与文書概要のタイトルに、ITU-R 報告のタイトルを示していただきたい。

②「狭帯域アプリケーション」が固定業務や移動業務には含まれないものであることをタイトルや本文に明示していただきたい。

(横山主査から、コメントの解釈について補足)本提案が、ITU-R WP5A(移動業務)やWP5C(固定業務)ではなく、WP1Aで作成する文書であることが分かるように記載することを西田構成員は提案しているのではないかと考える。

(NICT 小川氏)①は、英文と和文の副題を作成する。②は、イントロダクションに追記する対応でよい。

(横山主査)本委員会後に別途調整としたい。

・ 周作委 41-1-3(WRC 決議 910 で要請されたワイヤレス電力伝送(WPT)に関する研究の提案)

(新構成員)①寄与文書要旨の経緯に「2024 年と 2025 年の会合で見解の相違のために明確な結果が得られていない」とあるが、どのような相違があったのか。

②今回の提案は、その見解の相違を埋めるような対策やアプローチは取られているのか。

(YRP 研究開発推進協会小林氏)①2024年の WP1A では WPT に関する研究課題 210 に対し、WRC 決議 814 及び WRC 決議 910 への関連性を追記する改訂提案を行ったものの議場全体の流れとして、WRC 決議があればよく研究課題は不要であるという意見が大勢を占め、結果的に提案を取り下げることとなった。

2025年のWP1Aでは、2024年の結果を踏まえ、WPTに関する理解を醸成するため、WPTの全体像に関する新ITU-R報告を作成する提案を行ったが、議場からは既にあるITU-R勧告や報告を参照するのみで十分であるとの意見が大勢を占め、議論が進まず寄与文書のまま持ち越しとなった。

②WRC-31 暫定議題 2.2 の責任グループであるWP1Aが議論の結果としてショートテキストをCPMテキスト案に記載すること自体は反対することができないものと考えている。

(新構成員)②の対応は、現地で議論しないとわからない部分もあると思うが、これまでの多くのWRC 暫定議題の責任グループからはテキストの提出が無く、テキスト出力無しとすることが慣例化しており、暫定議題に関するテキストを責任グループは提出すべきという主張だけでは合意を得るのは厳しいという理解。現地での反論方法を複数考えておく必要があるのではないか。

(YRP 研究開発推進協会小林氏)検討する。

(福井構成員)①Annex1において「Start of work for preparation of WRC-31」と記載があるが、具体的に記載したほうが、今秋や来春のWP1Aの作業との整合がつくのではないか。

②同じ箇所の「Continuation of the work, if WP 1A meets

(WP 1A may not meet. Therefore, the schedule above should be met.)」について、“the schedule above”が何に対してなのかわからないので具体的に記載したほうがよい。

(YRP 研究開発推進協会小林氏)

検討する。併せて、文書内のスペルミスを修正したい。また、ITU-R 勧告及び報告の具体的な文書番号を付けるようにしたい。

(西田構成員(欠席のため横山主査によるコメント代読))

①カバーページのBackgroundが冗長に感じる。重要なメッセージは、WRC-27へのCPMレポート用のテキスト案を提出する必要があること及びWRC-23で策定された決議910が求めている研究があることであり、これまでの背景を詳細に振り返る必要はないのではないか。

②Annex 1はあまり中身の無い作業計画であり、現時点では不要であると思う。

③直近に対処が必要とされているのはWRC-27へのCPMレポートの内容であり、これをAnnex 1にすべき。

④現時点ではWRC-31の議題となるかどうかは未定であり、WRC 決議910が求めている研究を再確認すれば十分ではないか。

(YRP 研究開発推進協会小林氏)

議論に携わる担当者が変わってしまい、過去の例を知らない人がほとんどに

なっているため、そのような人のための情報として記載していた。修正を検討したい。

(横山主査)詳細な背景情報は Attachment のような形式とすることも一案である。本委員会後に別途調整としたい。

(2) ITU-R SG1 関連会合の外国等寄与文書審議表(案)について

周作委 41-2 に基づき、ITU-R SG1 関連会合の外国等寄与文書審議表(案)の検討を行った。特段意見なく承認された。

事務局から外国等寄与文書審議表については、SG1 関連会合への寄与文書の提出締切は 2026 年 5 月 22 日であり、今後提出があった寄与文書については、別途日本代表団で検討し、回覧する旨を報告した。

(3) ITU-R SG1 関連会合の対処方針(案)について

周作委 41-3 に基づき ITU-R SG1 関連会合の対処方針(案)を検討した。特段議論なく承認された。

(4)その他

事務局から構成員に対し、所属の変更があった場合は、随時事務局まで連絡をするよう周知した。

以上